

平成24年12月期 第2四半期決算説明資料



クリーン、ヘルス、セーフティで社会に—

 **興研株式会社**

平成24年12月期 第2四半期決算概要

営業の経過及び成果

平成24年12月期第2四半期累計期間（1月～6月）におけるわが国経済は、震災の復興需要の高まりを背景として、内需関連の業種を中心に緩やかな回復傾向が見られるものの、欧州債務問題や円高、株安の長期化に加え、夏場の電力供給制約の企業活動への影響や消費税増税の動きもあって、景気の先行きは不透明な状況が続いています。

そのような状況の中で当社の業績は、震災復興・除染対策用マスクや、オープンクリーンシステム「KOACH」の堅調な動きによって、売上高42億85百万円（前年同期比5.0%増）、営業利益5億8百万円（同4.9%増）、経常利益4億43百万円（同2.2%減）、四半期純利益2億79百万円（同22.9%増）となりました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

（マスク関連事業）

昨年から続くがれき処理や汚染土壌の除去作業用に加え、官公庁向けの緊急対策用マスクの納入を行いました。その結果、売上高は37億96百万円と対前年同期比3.8%の増収となりました。

（その他事業／環境関連事業等を含む）

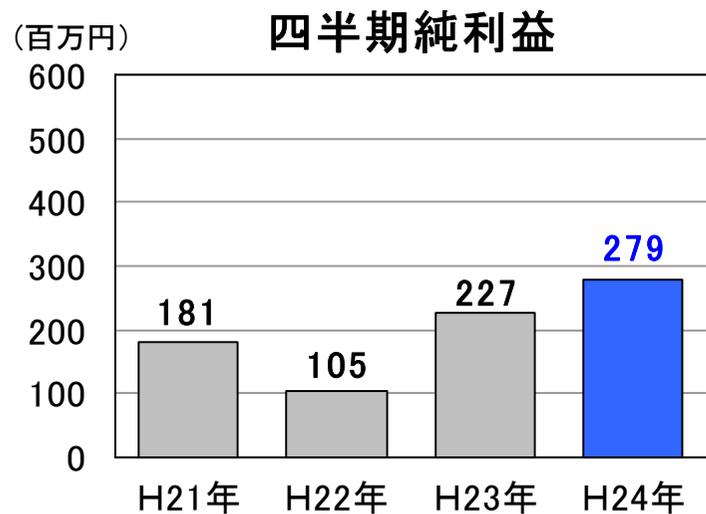
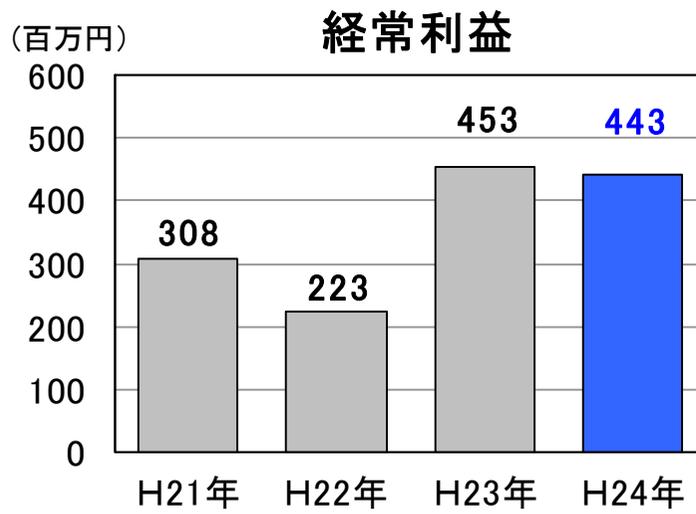
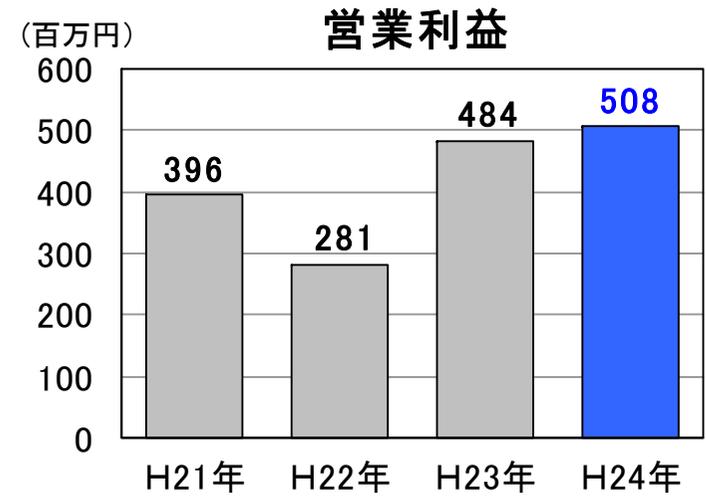
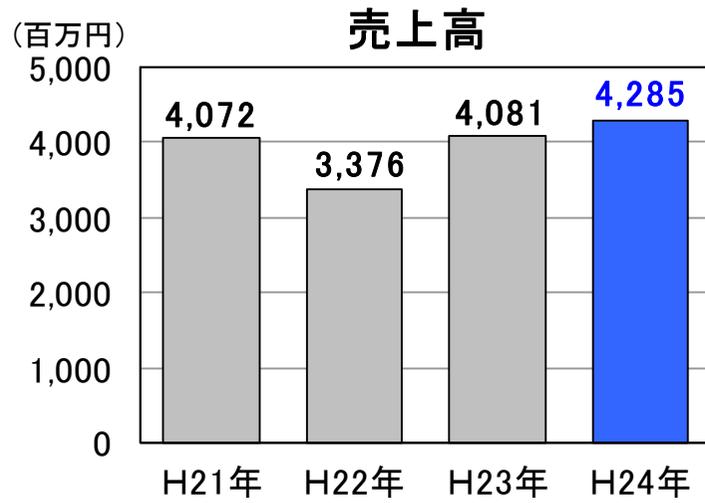
オープンクリーンシステム「KOACH」については、東京大学宇宙線研究所等への「フローコーチEz」「テーブルコーチ」第1号機納入に続いて、大手電子・電気機器メーカーから「フローコーチEz」を受注するなど、今期に入ってその動きが活発となっています。そして、産業向けプッシュプル型換気装置や官公庁向け浄化装置の販売増も寄与し、売上高は4億88百万円と対前年同期比15.5%の増収となりました。

業績の概要

(単位:百万円/百万円未満の端数切り捨て)

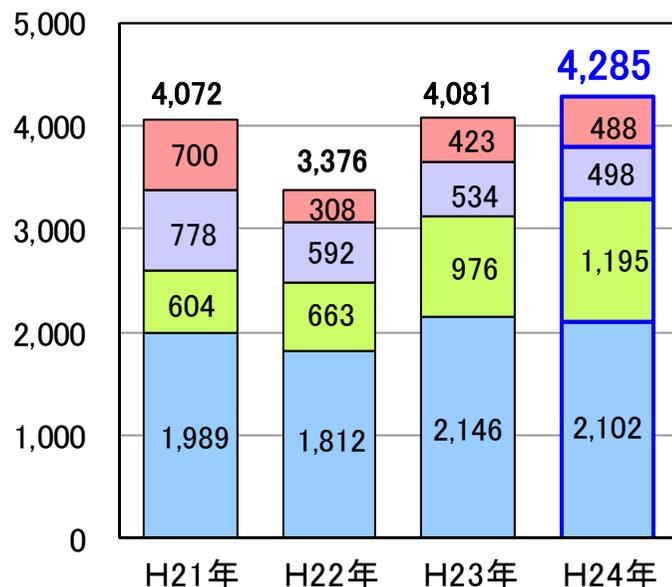
	前第2四半期累計期間 (H23.1.1~H23.6.30)		当第2四半期累計期間 (H24.1.1~H24.6.30)		増減
	金額	比率(%)	金額	比率(%)	
売上高	4,081	100.0	4,285	100.0	204
売上総利益	1,965	48.1	2,030	47.4	65
営業利益	484	11.9	508	11.9	23
経常利益	453	11.1	443	10.4	△10
四半期純利益	227	5.6	279	6.5	52
1株当たり四半期純利益(円)	45.02	—	55.31	—	10.29
	前事業年度 (H23.12.31)		当第2四半期会計期間 (H24.6.30)		増減
総資産	16,262		15,548		△714
借入金	5,414		5,430		16
純資産	8,466		8,532		66
自己資本比率(%)	51.7		54.8		3.1pt
1株当たり純資産(円)	1,663.78		1,683.23		19.45

第2四半期 売上高・利益の推移 (単位:百万円/百万円未満の端数切り捨て)



セグメント別売上高の推移 (単位:百万円/百万円未満の端数切り捨て)

(百万円)



平成24年12月期第2四半期累計期間のセグメント別の状況

マスク関連事業(防じんマスク、防毒マスク、マスク関連その他製品)がれき処理や汚染土壌の除去作業用に加え、官公庁向けの緊急対策用マスクの納入を行なった結果、対前年同期比3.8%の増収となりました。

■ その他事業 (環境関機器・設備等)

東京大学宇宙線研究所等への「フローコーチEz」「テーブルコーチ」第1号機納入に加え、産業向けプッシュプル型換気装置や官公庁向け浄化装置の販売が増え、対前年同期比15.5%の増収となりました。

品目区分	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
防じんマスク	1,989	48.9%	1,812	53.7%	2,146	52.6%	2,102	49.1%
防毒マスク	604	14.8%	663	19.7%	976	23.9%	1,195	27.9%
マスク関連その他製品	778	19.1%	592	17.5%	534	13.1%	498	11.6%
小計	3,372	82.8%	3,067	90.9%	3,658	89.6%	3,796	88.6%
その他	700	17.2%	308	9.1%	423	10.4%	488	11.4%
合計	4,072	100.0%	3,376	100.0%	4,081	100.0%	4,285	100.0%

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 興研株式会社

トピックス

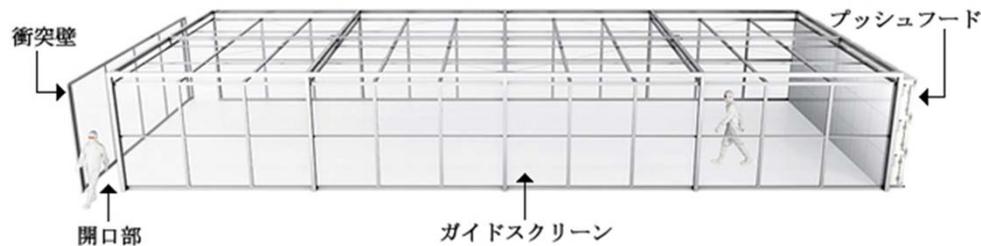
◇東京大学でオープンクリーンシステム「KOACH(コーチ)」が採用されました

当社は、“誰にでも、どこにでも、簡単に、高い清浄空間が得られる”をコンセプトとしたオープンクリーンシステム「KOACH」を開発し、販売を行っております。

そして、昨秋、現在のクリーンルームの最高レベルである清浄度ISOクラス1を実現する「フローコーチEz」と、より安価で手軽に清浄化が行える卓上型の「テーブルコーチ」の2機種を開発し、昨年12月に開催された半導体製造装置・材料に関する世界最大の国際展示会「セミコン・ジャパン2011」に出品したところ、ご来場者様から非常に高いご評価をいただきました。

そうした中から、東京大学 宇宙線研究所 重力波推進室からは「フローコーチEz」を、そして東京大学大学院 工学系研究所附属光量子科学研究センターからは「テーブルコーチ」をそれぞれ受注しました。発売したばかりの両機の1号機が、世界最先端の研究施設で使用されることになりました。

今回の採用によって、ルーム型(ガイドスクリーン仕様)の「KOACH」が、精密機器製造施設以外の研究施設においても需要が見込めることが明らかになり、今後当社は、大学及び企業の研究施設に対する営業展開も積極的に図って参る所存です。



フローコーチEz



テーブルコーチ

◇デュポン、アゼアスと共同事業の覚書を締結いたしました

当社は、平成24年3月7日に、デュポン株式会社プロテクションテクノロジー事業部、アゼアス株式会社 防護服・環境資機材事業部との三社間で新製品開発や安全の啓発に関する共同事業（プロテックアライアンス）に関する覚書を締結いたしました。

【共同事業の目的】

当社は、労働安全衛生保護具メーカーとして、防じんマスク、防毒マスク等の呼吸用保護具の開発及び製造・販売を行っており、アゼアスは、当社製の防じん、防毒マスク等の呼吸用保護具の代理店として、アスベスト、ダイオキシン等の有害化学物質による健康障害防止対策の啓発活動等を当社と協働して行っております。そしてデュポン社は、防護服のリーディングカンパニーとしてタイベック®防護服をグローバルに展開し、またアゼアスは、デュポン社の防護服のマーケティング及び販売活動をしています。

近年、地震等の自然災害、鳥インフルエンザなどの感染症、大規模プラントや原子力発電所の事故等の突発的なリスクに対応するためのBCP（事業継続計画）への関心が高まっています。そのBCPにおいて緊急対策用、復旧作業用として欠かすことのできない呼吸用保護具、防護服は、その高性能化が求められています。

そこでこの度、このような社会的要請に対し、呼吸用保護具と防護服のリーディングカンパニーとして優れた技術力、製品開発力及び販売力を有する三社が共同事業として呼吸用保護具と防護服を組み合わせることで、防護性の向上に加え、快適性・作業効率の良さも追求した製品開発及び啓発活動を行うことを目的とする覚書を締結いたしました。

【共同事業の内容等】

- (1) 呼吸用保護具と防護服の安全性、快適性等を高めるための製品の共同開発
- (2) 呼吸用保護具と防護服の適切な使用方法を説明する共同セミナーの開催
- (3) 呼吸用保護具と防護服の必要な情報を提供する展示会の共同出展



呼吸用保護具
防護服

◇米国 疾病対策予防センター(CDC)よりマスク研究装置を受注しました

当社は、米国の疾病対策予防センター(CDC)より、マスク研究装置(呼吸サンプリング装置・人工肺呼吸シミュレーター)を受注し、その下部組織である国立労働安全衛生研究所(NIOSH)に同装置を8月に納入いたします。

防じんマスクや防毒マスク等の呼吸用保護具の規格は、吸引ポンプ等を用いた一定流量、定常流の通気で試験を行うと定められています。しかし、実際の人間の呼吸量は、性別、体格、作業内容によって異なり、その呼吸波形(吸気・排気のパターン)にも違いがあります。このことから規格上の通気試験は、実際の作業者の呼吸量や呼吸波形を直接反映していないと言えます。当社は、規格上の性能と実際のフィールドでの作業者の呼吸による性能との相関関係を究明することが必要と考え、作業時の呼吸状態を記録、解析する呼吸サンプリング装置と記録されたデータ通りの呼吸を再現する人工肺呼吸シミュレーターを開発しました。そして、様々な作業現場、作業内容での実呼吸のデータ収集を行い、これらの研究成果を国内外の学会で発表しております。そして2010年、第15回国際呼吸保護学会(ISRP)国際会議で発表を行ったところ、大きな反響を呼び今回の受注に至りました。

本装置は当社が社内の研究用として開発したもので、本来商品ではありませんが、国際的機関が当社の研究及び研究装置を高く評価し、販売を要請してきたため対応することにいたしました。

当社は、この2つのマスク研究装置の普及が、CDC、NIOSHをはじめとした各国の機関において、疾病対策としての呼吸器の保護やマスクの研究を活発にし、よりフィールドに即した規格の実現に貢献していくことを期待しています。



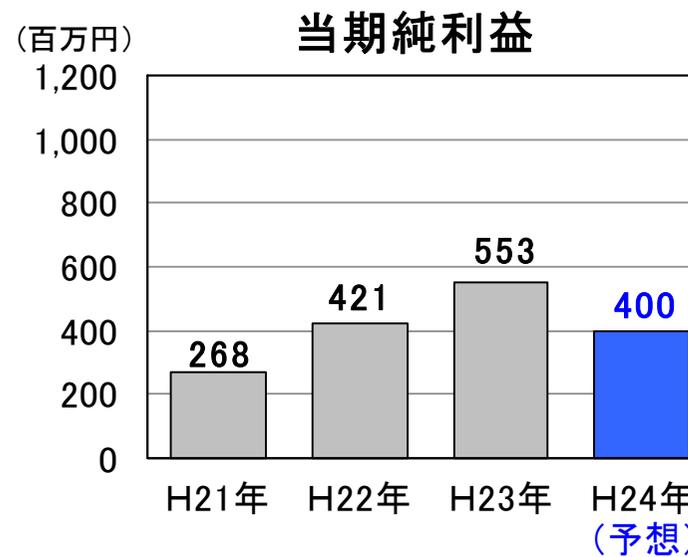
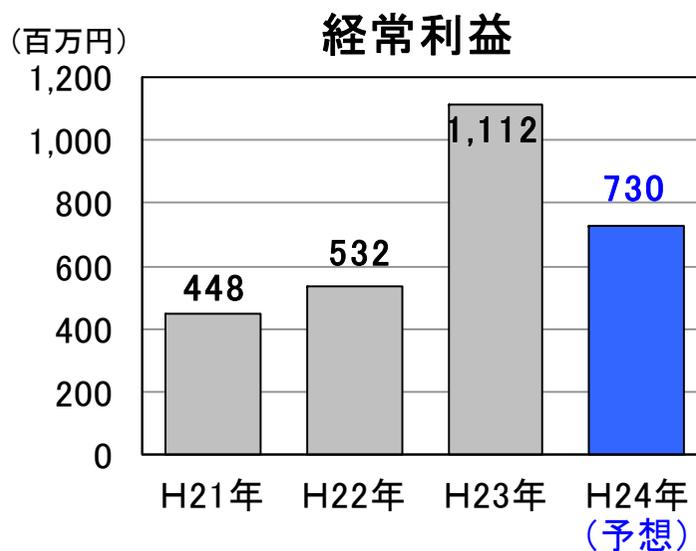
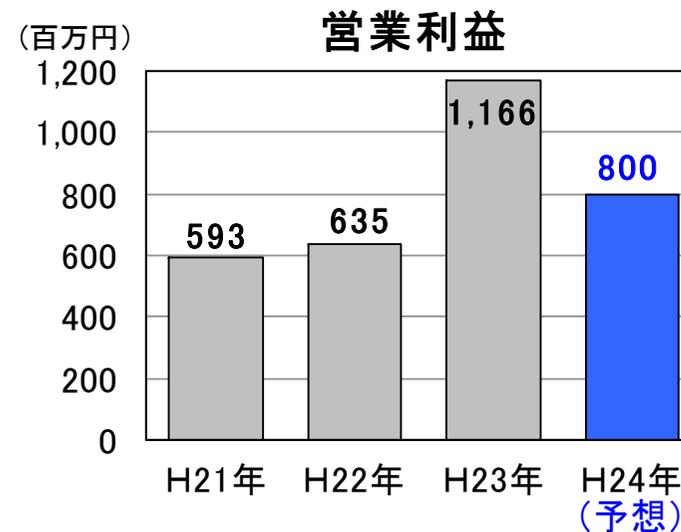
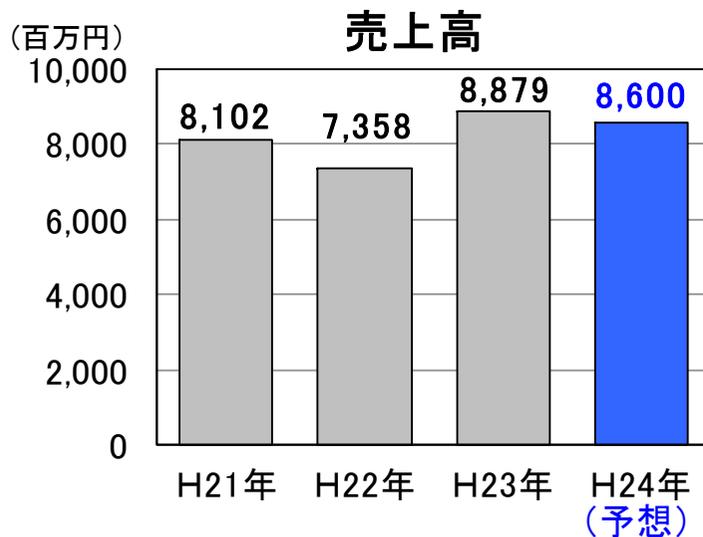
呼吸サンプリング装置



人工肺呼吸シミュレーター

平成24年12月期の業績予想

通期 業績予想 (単位:百万円/百万円未満の端数切り捨て)



平成24年12月期第2四半期累計期間の業績は、ほぼ計画通りに推移しております。従いまして通期の業績予想につきましては、平成24年2月6日付「平成23年12月期決算短信」で発表した数値から変更しておりません。

本資料に記載されている業績予想数値等の将来に関する記述は、「平成24年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）」発表日（平成24年8月6日）現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp>